

## 令和7年度 横浜旭陵高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和8年3月7日(土)13:30～15:30
- 2 場 所 県立横浜旭陵高等学校 B棟1F 多目的室
- 3 出席者 学校運営協議会委員:6名 (川崎様、渋谷様、山田様、久保様、大和田様、十亀様)  
学校関係者:9名(管理職・総括教諭他)

### 4 内 容

#### (1)校長挨拶

お忙しい中、学校運営協議会にご出席いただきありがとうございます。

本日の協議会は、本校の現状や今後の課題について話し合う場としていただきたい。

完校まであと一年となりその関係で、過去にはない様々なミッションを達成していかなければならないと考えている。皆様の率直なご意見やご助言を頂ければ幸いです。

#### (2)グループ等より目標達成報告

##### 研究開発G

##### 持丸総括教諭

##### ・認知行動療法の要素を取り入れた授業実践について

委員である小関先生のアドバイスをいただきながら取り組んできた。また、教職員対象研修会、生徒向けのワークショップを、昨年度より実施回数を増やして実施した。とくに先月の2月5日から3日間、23期生を対象に校外学習を実施することができた。「社会につながる、学びをつなげる、未来へつなぐ」をテーマに13のプログラムに分かれて1日目は体験学習、2・3日目は発表会も行い、普段の学校生活では学べないことを学ぶことができたこと生徒に好評であった。プログラムを考えるうえで委員の渋谷様、大和田様のお二人にもご協力いただいた。

##### ・授業評価について

1月下旬に保護者へ配付。「授業がわかりやすい」「意欲的に取り組めた」など、肯定的な回答が多く、満足度、理解度は高い水準であった。また、主体的な学びや対話的な学びの項目で、成果が見られた。ただ、教科によっては、学びを通じた気づきや考えの深まりの実感が十分でない傾向もみられるため、これを来年度の課題として授業改善に取り組むたい。

##### 学事情報G

##### 大久保総括教諭

##### ・成績処理、教育課程について

今年度は1年次がいなくなり、2・3年次の授業展開、人数が少ないため難しい面もあったが無事に授業展開できた。現在学年末の成績処理中。

来年度は更に3年次だけになり、職員数も約半分になってしまう。生徒が入学時に教育課程を見て取りたいと思っていた授業を実現できるよう現在準備中。

生徒たちが教員の人数が減ってしまったことにより、できなかったということがないように引き続き授業展開を行っていきたい。

##### ・学習支援について

サポートティーチャーの教室に通って勉強する生徒も増えた。来年度も増えるよう支援したい。

## 生徒成長支援G

### 山森総括教諭(長谷川教頭代読)

具体的な方策として「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーおよび外部機関との連携をより強化するとともにチーム支援や職員研修などを通して生徒の自己有用感を高める」ことをあげてきた。今年度の本校の教育相談の実態と未然防止の取り組みと、ソーシャルスキルトレーニングについて報告する。

・今年度の本校の教育相談の実態と未然防止の取り組みについて報告

問題が起きてから対応するだけでなく、問題が起きる前に防ぐ「予防」、よりよい人間関係を自ら築く力を育てる「開発」の二つの視点を強化した。

・予防として、変化を見逃さない早期対応。問題が深刻化する前に手を打つ取り組みについて

#### 1 神奈川こどもサポートドックの活用

全県で始まった定期的なアンケートを生徒に実施することによって生徒の小さなサインを早期にキャッチすることができた。その結果、必要に応じて適切な相談機関や就労支援の相談などに手遅れになる前に繋がられている。

#### 2 日常的な面談の実施

何もないときこそ、担任が面談を行うことで生徒との心の距離を縮め、信頼関係の土台を作る。

・生きる力を養うスキルトレーニング「開発」的な教育相談について

生徒が社会で生きていくためのスキルを磨く取り組み。スクールカウンセラーとの連携により、具体的な成果が得られた。

・スクールカウンセラーとの連携の事例紹介

1. アルバイトをやめられず悩んでいた生徒、学校生活にも支障でて休みがちに。どうやって角を立てずにやめるか。交渉術をソーシャルスキルトレーニングを重ねることによって学び実際に辞められた。

2. 対人関係に悩む生徒がトラブルを避ける具体的な接し方をソーシャルスキルトレーニングを重ねることによって身に着け、落ち着いて学校生活を送れるようになった。

こうした実践的なスキルの習得は生徒の自信にもつながっており、確かな手応えを感じている。今年度は特に力を入れたところでもある。

来年度も、これまでの成果を止めることなく生徒一人ひとりが自分の力で課題を乗り越えていけるよう、支援体制を充実させる。

## 進路支援G

### 千葉総括教諭

・進路指導・支援

今年度の方策として、「キャリア教育実践プログラムを充実させて生徒への還元を行うこと」、「進路希望の実現に向けて、組織的にキャリアカウンセリングやガイダンスを行うこと」をしてきた。

・達成状況

キャリア教育については卒業年次・2年次とも職員とともにしっかりと情報共有をして行っていた。

夏休みには2年次・卒業年次を含めて1日間看護体験24名、インターンシップ2名、職の学び場2名と進路について考えることができた。

・卒業年次の進路希望について

就職・進路指導について面談を行い、結果89%の生徒が進路実現となった。

今年から新たに校内模試を年4回行い、延べ32名が受験した。

#### ・キャリアカウンセリングについて

昨年は1年次2年次と行っていたが今年は2年次のみ。延べ人数は少なくなっているがしっかりと行うことができた。

#### ・卒業年次進路概況について

現在、進学・就職合わせて約86%。これは2月26日段階のもので数字が少ないが、卒業生数を170名として進路調査を進めている。

#### ・卒業生進路先一覧

昨日(3月6日)国立大学に合格した生徒を1名追加。国立大学に合格した生徒は初めてで、該当生徒は慶應義塾大学、東京理科大学にも合格。

本人は単位制だったことで自分の学びたいことを自由に学ぶことができ環境が良かった。塾にも行っておらず、自宅で学習できたことも自分にとってはよかった、と言っていた。

それ以外に本年度多かったのは指定校だが、総合型選抜や公募の学校推薦型を受験した生徒もいた。

受験のスタイルが多様になっている中で、自分でどの受験方法が良いかを担任・進路に相談でき、自分の進路実現につなげることができたのではないかと。

短期大学、職業技術校についても、早い段階でここに行きたいという強い意志があり、しっかりとサポートできた。

専門学校については56名の生徒がAO・指定校で合格をもらっている。

#### ・就職について

6名を除き35名が学校求人を通して内定している。昨年度より学校推薦を希望する生徒が増えた。進学も考えていたが、早く社会に出て貢献したいという生徒も多くいた中で自ら求人票を見て、会社見学最低2社行くよう指導したうえで自分の働いてみたい会社をみつけた。面接や一般常識などサポートできた。

公務員志望は受験したが内定もらえず、切り替えて一般就職で内定。

#### 自主活動支援G

伊藤総括教諭(長谷川教頭代読)

#### ・部活動について

生徒減少の中ではあるが、各部地道に活動を続けている。野球部やサッカー部等の団体競技は他校との合同チームで大会参加を続け、吹奏楽部も旭高校と合同で活動を継続。他にもバドミントン部、弓道部などで大会で健闘。来年度は職員減少の中で、顧問の適正配置が課題。

#### ・地域活動、生徒会活動について

今年度は生徒会役員が、卒業年次生にむけアサーションの授業を行った。前年度より小関先生に色々と教えていただきながら授業計画を立て、夏休みに動画撮影、時間進行を考え、9月に生徒が授業実施。1月には補足のための資料を作成し配付した。授業内容を生徒会役員が校外で発表する機会もあった。来年度は役員数減少のなか、生徒会活動の継続性をどう守っていくかが課題。

#### ・学校行事について

今年度はほぼ例年通りできた。レクリエーション大会・芸術鑑賞会・旭陵祭など規模の縮小はあったものの職員一丸となり生徒も含めて充実した内容で行うことができた。

来年度は職員減、生徒減の中で大変厳しい中ではあるが最後の卒業年次生に寂しい思いをさせないように工夫をして行事の充実を図っていく。

## 総務管理G

### 原総括教諭

#### ・完校に向けて

主な仕事は学習環境を整えること。来年の3月で学校を閉じるため片付けの作業が迫っているが、端から片付けていくというのは職務の面から難しい。捨ててしまうのは簡単だが今のところできない現状がある。工夫をしながら職員全体の知恵を借りながら閉校に向けた取り組みを進めている。来年の今頃は今以上に追い込まれるが、次に使うところへ適切に、速やかに引き渡しができるよう努めていく。

#### (3) サポートティーチャー活動報告

##### ・サポートティーチャーについて

学校内にCo-Study LAB(コースタディラボ)という部屋を作り、常駐していただいたり授業のサポートに入って頂く先生に居ていただき、生徒たちが頼りにしている。

通う生徒も増えており、日頃の授業の補習や予習、課題作成への指導をしていただいている。

卒業年次生が就職や進学で作文を書くのを指導していただいたり、面接の内容や受験勉強を見て頂くこともある。検定関係の場面でもご指導を頂いている。

特に2年次生はその部屋を自分の居場所と考えている生徒も多々いる。そのため勉強だけでなく、挨拶だけをして帰る生徒もいる。

23期生は昨年度は908件、今年度は761件と前年比84%に減少しているが、昨年度は全員が数学Iの授業の関係でお世話になっていたが、今年度は数学Iの授業がないため実質増えている。卒業年次生も進路関係でお世話になっており、1.7倍に増えている。

来年度に向けてもお世話になりたい23期生は多い。教員側でも学習支援を続けていく。

#### (4) 委員よりご意見ご要望等

##### 十亀様

話を聞いて国立に受かったなどすごいなと思った。生徒本人の努力も大きいですが、先生方の取り組みが生きてきたのかなと感じる。

資料3で評価についてすごく高いと感じた。これまでの取り組みが、生徒にとってわかりやすい、やりがいに繋がっているのだと思う。

難しいことをやってもやりがいに繋がらず、わかりやすい授業により、やれるかな、できるかな、と気持ちを持たせることでやりがい、先に進める仕組みにつながるマインドになる。取り組み効果が出ている。学力の部分ではすごく出ている。

ソーシャルスキルトレーニングを取り入れたところで、できなかったことができるようになるので良いと感じた。社会に出て非常に重要になってくるスキル。新入社員にも、なかなかうまくできない人がいる。

できないことができるようになった・ソーシャル的な考え方もそうだが、そうした考えを持つ人はしっかりと自己分析ができています。そうした人の考えのどこが良いのか、優秀なのか共有する場があればよい。職場においても考え方やマインドが違うため、良い考え方についても共有をして・理解して落とし込んだほうが良い結果につながる。

##### 大和田様

閉校ということで、いろいろなところに影響がでてくるので細かいところに配慮しなければならない。生徒のモチベーションや学校生活を整えていかなければいけないということでご配慮されているんだなと分かった。

進路が決まっていない学生が若干居るということで、この時期で生徒も落ち着かない中で気持ちの揺れを感じるが4月を笑顔で迎えらるるといい。

私共の法人でも数年ぶりに4月から高校生を就職で受け入れることとなり、どうやって育てていけばよいのか。社会性も含めて悩んでいるので、お知恵をお借りしたり相談をしたい。

### 【質問】

・サポートティーチャーについて

仕組みとして先生方が空いている時間に教えているのか、外部の方が教えているのか。内容として、どういった内容を学習面でも、どういった形でアドバイスなど関わっているのか。

生徒が利用している数が多いところから見ると大事なシステムだと思うので中身を教えてほしい。

### 【回答】大久保総括教諭

講師1人に勤務をして頂いている。数学の教員免許をお持ちの先生。

英語や地理などの他の科目についてもご自分が勉強したうえでサポートに入らせていただいている。

授業にもサポートという形で入って指導していただく場面や、部屋にいて生徒が課題を持ってきて教えていただく場面もある。進路の面でも作文等も同様に様々な場面で支援いただいている。

久保様

完校に向けた中でいろいろなことに取り組んでいることが良く分かった。生徒も進路や就職など希望先に向けて様々な実績を積み活動をしている。生徒、教員減少の中で学校の雰囲気も気になっていたが、生徒会の役員に6名立候補があったのは素晴らしいことだと思います。生徒がいい思い出を作って卒業できるように取り組んでほしい。

先生や生徒減少の中で色々な活動の制限などあると思うが、あと一年頑張ってもらいたい。

山田様

生徒一人ひとりに向き合う姿勢がすごい。ここを卒業した後に社会で生きていくための力、ここでの学習のその先を見据えて居るのが素晴らしい。

閉校といわず完校というのだと初めて知ったが、それに向けて卒業年次の生徒だけになるということで、行事もさみしくならないように。旭陵祭で、作業所とコラボするなどの話を頂いており、周りの人たちを巻き込むのをすごく上手にやっている。(うちにも声がかかった)

それが進路や将来の進路のイメージにつながるのだと感じた。

進路のところで福祉関係や保育に行く生徒も数名いるので、そうした方々にイメージを持ってもらうため、私たちの施設を活用していただきたい。

協議会は会員施設となっており、障害も高齢も保育もまんべんなく関連施設が79施設あるので、うまくコラボをして就職や進路のイメージを掴むのに使ってほしい。

ちょっと課題があるお子さんもアルバイト・ボランティアとして施設が受け入れてくれているので、わたしたちがコーディネート役を担えたらと思います。

渋谷様

先日、白根の里第九自治会に2年生が11名、久々に来てもらった。昔は公園で行う宴遊会のような行事があった。過去に陸上競技部の生徒と準備から懇親するまでほぼ一日手伝ってもらっていたので、久しぶりに来てもらってとても懐かしかった。非常にまっすぐすすくと育っていらっしやる。

2月の校外学習の際にはものづくりの経験もできて楽しんでもらったのではないかな。

一番心配しているのは後輩がいないという事で、我々の経験から後輩がいないというのは相当なハンディだと思う。

先ほど方針の中で、何があっても自分の力で乗り越える、取り組む前向きな力は自分が主体ではなく、どうしても与えられる方となってしまい、ついていけばよいとなってしまふ。

できれば下の子と接する機会が増えることによって自分で考えてやる、何かをしてやるなど、前向きの力がでて困ったときに自分で解決するトレーニングになるのでは。

来年チャンスがあれば、公園愛護会を活発にやっているのでも我々が全面支援をするので公園を使ってもらい、花を植えたり美化活動など小学生が積極的に参加してくれているので、逆に子供たちを指導するように我々もサポートするのでいっしょに活動するなど良いのでは。

現在挨拶運動に力を入れており、町全体で挨拶しようとして動いている。来年のグリーンエキスポに向か

い挨拶の飛び交う街、ごみのない街ポイステ0の街へ。グリーンエキスポは地元なので、もし高校生の皆さんで関心のある人がいれば最後の学年の中、関東での万博なので記念すべき年、そういった思い出になることをすることを考えていただきお手伝いできたらと思います。

川崎様

今年度娘が卒業予定。サポートティーチャーの先生にはとてもお世話になったので、いると良いと思いました。

ただ、サポートティーチャーが1人ということに驚いた。サポートティーチャーの負荷を考え、他の先生も教えに入ったら良いのではないかと考えます。

#### (5) 校長より

委員の皆様からご意見、感想をいただきありがとうございました。

私共のことをご理解いただけたのではとホッとした気持ちです。

新しいご提案で生徒の活躍する場面など新しいチャンスのヒントをもらえた。どこまで利用させていただくかひねり出していく所。生徒たちをその気にさせて載せていくのも我々の仕事だと思うので、頂いた内容をグループで考えながら、生徒たちがどのような卒業をしていくかというところでご協力いただくかを考えて行きたい。

#### (6) その他

今年度もありがとうございました。

来年度で完校しますが、続けて委員をしていただければと思います。組織内で移動がある場合はご連絡を。